

## 日本情報通信 クラウド・インテグレーション「IBM WebSphere Cast Iron」

クラウドのカギは社内システムとの連携  
統合環境を素早くシンプルに実現する

SFA/CRM等のSaaSを利用する企業が増加するなど、国内でもパブリッククラウドサービスが浸透し始めた。ここで重要になるのが、社内システムとのデータ連携だ。クラウドとオンプレミス統合することで、重要なデータを安全に守りつつ、クラウドの柔軟性とスピードを活用することが可能になる。

営業支援(SFA)や顧客管理(CRM)システムの分野でクラウドアプリケーションの利用が広がっている。短期間かつ低コストに導入でき、また柔軟にシステム規模を拡張・縮小できるといった利点が浸透することで、今後もこの流れは確実に進んでいくだろう。

だが、こうしたクラウドの導入には1つ、大きな課題がある。クラウドサービスと、オンプレミスの社内システムとの連携だ。

「顧客情報や在庫情報など自社内で保有するデータやオンプレミスの業務・情報システムとクラウドのシステムをシームレスに連携させることが、クラウド活用のカギになる」

そう語るのは、日本情報通信・営業統括本部ソリューション推進部の江藤彰彦部長だ。クラウドの利用が本格化するなかで、これと社内システムをつなぐ統合環境の構築ニーズが急速に立ち上がっている。

例えばSFAのSaaSを使う場合、営業活動のプロセス管理はクラウド上で行えるが、社内システムの在庫情報や顧客情報を閲覧したり、受注後の業務処理を円滑に進めるには、両者のデータ連携が必須。でなければ、トータルでの業務プロセスの改善にはつながらない。

複雑なコーディングなしに  
クラウドとオンプレミスを連携

従来、この“つなぎ”を実現するには、多大なコストと時間をかけて連携プログラムやインターフェースを開発するか選択肢がなかった。

この壁を取り払い、スムーズなクラウド導入を実現するのが、日本IBMのクラウド連携ツール「WebSphere Cast Iron」だ。顧客企業のクラウド活用を支援する「クラウド・インテグレーション」事業に注力する日本情報通信は、これを活用したクラウド移行支援サ-



日本情報通信  
営業統括本部  
ソリューション推進部  
部長  
江藤彰彦氏

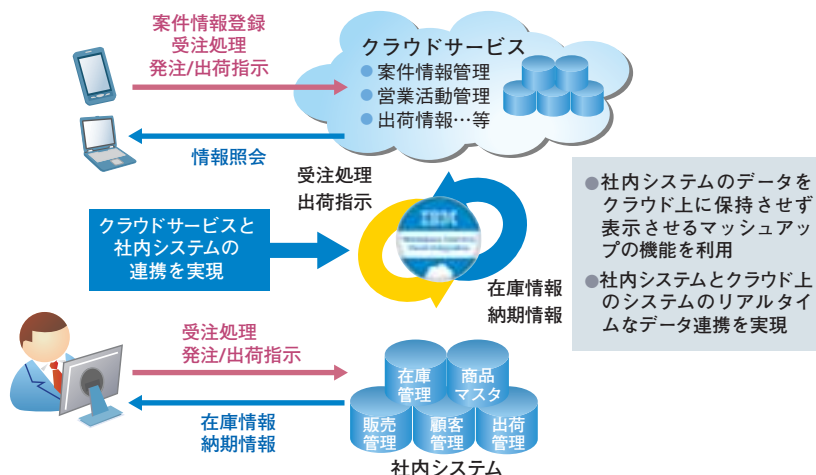
ビスの提供を始めた。

WebSphere Cast Ironは、予め定義されているテンプレートを用いて、複雑なプログラミングなしにクラウドとオンプレミスの業務アプリを連携させることができる。個別にプログラム開発を行う場合に数カ月を要する連携構築を10日間程度で行うことも可能という。Salesforce.comやSAPをはじめとする多様なクラウド／オンプレミスの業務アプリを標準でサポートしているため、幅広いニーズに対応可能だ。

日本情報通信ではこのほか、クラウド移行に関わるコンサルティングや基盤構築サービス、業務アプリなどを豊富に用意している。

「ITとネットワークのどちらの領域にも強いのが当社の特徴。トータルにお客様のクラウド移行をサポートする」と江藤氏。適切な製品とサービスを組み合わせ提供することで、ユーザー企業のニーズや利用形態に応じたクラウド活用に貢献していきたい考えだ。

図表 クラウド・オンプレミスシステム連携ソリューション



お問い合わせ先

日本情報通信株式会社

営業推進部

TEL: 0120-219-056

※電話受付時間: 10:00~17:00(土・日・祝日を除く)

URL: <http://www.niandc.co.jp/solution/castiron/>